

# しあわせ

No.20

平成 27 年 3 月

## 發行 守山市民生委員會兒童委員協議會

事務局 守山市社会福祉協議会  
住所 守山市下之郷三丁目2番5号  
TEL 077-583-2923

## 里親大会に参加して

去る10月25日、県立男女共同参画センターにて、第57回滋賀県里親大会が開催されました。例年、守山市からは里親会の方の他に、児童・家庭福祉部会(第4部会)と主任児童委員会のメンバーが参加しています。

里親制度は、児童福祉法に基づき、様々な事情により親と暮らすことができなくなった子どもを自分の家庭に迎えて養育する制度です。一般家庭で育ち、親子という人間関係のつながりの中で生活経験を積むことが、将来、自分の家庭を築く際のモデルとなるのです。本大会では、里親体験発表があり、里子を養育する中の苦労話や、愛情豊かに子どもに寄り添い子育てされている心温まる話などを耳聴し、胸が熱くなりました。

また、「ライフサイクルを通じた子どもの理解」と題し、京都少年鑑別所法務技官で精神科医の定本ゆきこさんからご講演を賜り、子どもの発達過程における課題やその課題を負のループから正のループに変えるための支援について学びました。

近年、児童虐待などの悲しいニュースが後を絶たない現状の中、これから社会の担い手として、どの子も健やかに育ってほしいと願わざにはいられませんでした。 (大崎記)

**速野学区  
民児協** 「民生委員児童委員の日活動強化週間」  
啓発活動コンクールで優秀賞



速野学区民児協では、学校や園でのあいさつ運動、サロンでの民生委員児童委員活動の啓発、有線放送を利用しての福祉情報発信とPR、また活動紹介パネルを各自治会館に展示するなどの活動が評価され、県のコンクールで優秀賞を受賞されました。

することを目指していこう、というものです。

さらに、平成27年4月1日以降、特別養護老人ホームおよび地域密着型特別養護老人ホームへの入所は、やむを得ない事情がある場合を除き、原則要介護3以上の人に対することや、平成27年8月1日以後、一定以上所得者の利用者負担が2割負担となるなどの改正が予定されており、今まで入院・入所できていた人も、地域での生活を選択せざるを得ないと、状況が発生することも予想され

そのためには、生活習慣の見直し

子育てや仕事などの役割を終った後の20年以上の長い人生を充実して過ごすためには、できる限り介護や医療が必要な状況にならないようにすることが大切です。

今回の改正においては、いよいよ今まで住み慣れた地域で、暮らしがし続けることができるよう「住まい・医療・介護・予防・生活支援」が、身近な地域において一体的に提供できる本制づくり

わが国では、すでに総人口が減少し始め、その一方で、高齢者人口・高齢化率が増加するという局面に入りました。平成27年4月からは、介護保険法の一部改正の施行等により、この超高齢社会に対応するための仕組み・体制づくりが整備されるとになっています。

声

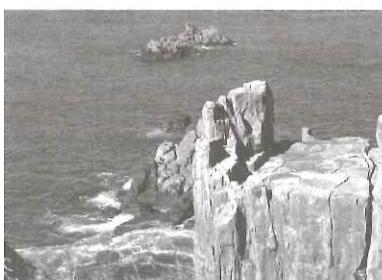
# 『いつまでも住み慣れた 地域で過ごすために』

地域包括支援センターでは  
これからも、市民一人ひとりの  
皆さまのご協力やご理解をいた  
だき、住み慣れた地域で安心して  
過ごすことができるまちづくり  
を推進していきたいと考えて  
おりますので、今後ともよろしく  
お願い申し上げます。

# 学区だより

吉身学区  
県外研修報告

福井県で人権学習・ゲートキーパー研修・写経体験など



10月29日から30日にかけて、福井県を訪問しました。研修は、原発の存続・廃止問題が国民的課題となっている日本原子力発電株式会社の敦賀原子力館の視察、人権学習として人道の港「敦賀ムゼウム」の見学、さらにゲートキーパー研修の一環として「東尋坊・命の灯台守」で知られる茂 幸雄氏(NPO法人「心に響く文集・編集局」理事長)に現地での講演、精神修行として大本山永平寺で写経体験するという内容で、大変有意義な内容の濃い県外研修となりました。

敦賀原子力館では、原子力発電の仕組みや役割、安全対策などについて解りやすい説明を受け、その存続、廃止について改めて一人ひとりが考えるよい機会となりました。

また、敦賀ムゼウムでは、ボランティアガイドの解説もあり、ユダヤ人難民やポーランド孤児の救出には、よく知られている杉原千畝氏は言うまでも無く、多くの敦賀市民も関わっておられたことを学ぶことができ、日本人の人権意識、命の尊さ、そして平和について考えさせられました。

さらに、民生委員としても活動実績のある茂 幸雄氏からは、私材を投じてNPO法人を立ち上げ、自殺企図者の救助・支援活動を始めずにはいられなかった心境や、救援・支援活動上の課題、自殺企図者に限らず、見守りを必要とする方には、「まず話を聴き、共感し、歩みを見守る」ことが大切であるなど、私たちが日々の見守り活動を行うにあたり有益な話を伺うことができました。

研修の締めくくりは、永平寺での写経体験でした。修行僧により諸堂を案内いただいたのち、参加者全員が、非日常性の静寂な空間の中で、經典「七佛通誠偈」「延命十句觀音經」などを無言で写経し、心身共に清められ、清々しい気持ちで帰路に着くことができました。  
(吉身学区 副会長 中野記)

守山市社会福祉協議会  
ボランティアセンター紹介

守山市社会福祉協議会  
ボランティアセンター紹介

ボランティアセンターではボランティア活動の促進をはじめ、いろいろな活動ボート事業、ファミリーサポート事業など多岐に渡り、地域で活躍いただいているです。現在は団体、個人含め約90のボランティア登録があり、その分野は生活支援やレクリエーションなど多岐に渡り、地域で活躍いただいているです。ボランティアに興味のある方、ボランティアのご依頼はすこやかセンター(TEL: 583-2923)までお気軽にご相談ください。

編集後記

大寒、節分、立春と季節はめぐり、こよみは冬から春へと移っています。未年が、まつ白な雪の日から始まつた為か例年なく寒さが厳しいと感じました。又、まつ白から、どんな彩りの年になるかと思いをはせたり、昨年を振り返つたりもしました。私たちが慣れ親しんでいるふくし、「ふだんのくらしにしあわせ」とは別に「ふつうにくらせるしあわせ」(の実現)があることをご存じでしょうか。恐がらず食事ができ、怖れず眠れ、暴力に怯えない日常生活。この「あたりまえのしあわせ」を知らず、保障されいない子どもや大人が存在しています。

しあわせとは、信頼のし、愛のあ、和・輪のわ、世界のせとこじつけて勝手に思つてます。子どもも大人もこのしあわせを感じる認め合い、ほどよくカラー(個性)を出せる「虹色」の関係づくりをしたいものです。(大谷記)

## 障害児・者福祉部会(第3部会)活動報告



第3部会は、平成26年度から37名の新メンバーでスタートしました。活動計画は従前の実績をベースに進めるにしましたが、継続性を持って研鑽する事業もやろうと企画委員会で図り手話を取り入れることにしました。

障害のある人の地域生活を応援するためには、我々自ら、その場に入ることが大切であり、聴覚や言語の不自由な人と同じ目線で接することが重要です。

まず、県立聴覚障害者センターより手話の基礎学習ビデオをお借りし、定例会の冒頭、30分程度のビデオ学習および実習を行っています。館外研修の際は、バスの移動時間を利用して学習するなど工夫をしながら、定例会の挨拶を行ったり、地域での活用が出来るよう全員で頑張っているところです。

次に、昨年暮れの障害者支援施設「止揚学園」への訪問研修です。止揚学園には、38名の知能に重い障害を持つ方と、ほぼ同数の職員がおられ、家族同様の共同生活の中から、新しい生き方を生み出すという方針で歴史を築いてきた施設です。



施設は、能登川の猪子山の麓で田園風景のどかな場所にありました。研修は、学園の概要説明から施設見学となりましたが、共用場所である炊事場、洗濯室、風呂、廊下、トイレなどの驚くほどの綺麗さ、どこにも汚れやホコリの無いことにビックリ、訳を聞くと作業の出来る仲間と職員は経験値は関係なく常に力を合わせて取り組んでいる由。

食事は、皆でテーブルを囲み、床に座って一緒に食べるのですが、時折声が。これは我々と共にする食事が嬉しいとの表現とか、懸命の意思表示に胸が熱くなりました。

いろいろな質疑を終えて退園の時、玄関まで出てにこやかに懸命に手を振り、声を出して見送りしてくれる姿勢に後ろ髪を引かれつつ、止揚学園からのおみやげは心の温かさ、やさしさを胸いっぱいにいたしました。(部会長 櫻井記)

## 主任児童委員活動紹介

### 「ほほえみセンター」で子育て親子への支援活動をはじめました

守山市の主任児童委員は現在14人で「赤ちゃん訪問活動」をはじめ、子育て中のお母さんと子どもへのいろんな支援活動をしています。



主任児童委員会では2014年からの新しい事業として、大型児童センター「ほほえみセンター」で、来館する子育て中のお母さんや子どもと一緒に、楽しい手作りおもちゃを作ったり、ゲームをしたり、歌を歌ったりして交流するプログラムを始めました。年に3回の定期訪問に加えて、秋のレクレーション大会には、ゲームコーナーだけでなくポップコーンや綿菓子のコーナーを担当して子どもたちに喜ばれ、大会を盛り上げる力となりました。またクリスマス会にはサンタクロース役になって子どもたちにプレゼントを配ったり、一緒に写真を撮って、子どもの人気者になりました。

主任児童委員はこのような活動を通して地域の子育て中のお母さんを支援するだけでなく、主任児童委員の存在をより多くのお母さんに知っていただき、今後のいろんな相談に役立てもらいたいと考えています。(主任児童委員会 代表 畠中記)